学校だより２月号　　令和６年１月３１日

# 南舞岡小だより

学校教育目標「学ぼう　つながろう　切り拓こう」
学校所在地　〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1　　TEL 823-4120,4130
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/

## 「日常」の有難さ

副校長　　佐藤　朋実

暦の通り、大寒を過ぎてから空気の冷たさを一層感じられる日が続き、学校の池には氷が張りました。登校や校内での活動中に霜柱を見つけたり、外の蛇口から水が出なくて慌てたり…。「冬の寒さ」を実感しながらも、どこか楽しそうな子どもたちでした。池の氷や霜柱などに興味をもち、楽しく思うのは、きっとそれがふだんとはちょっと違う「非日常」であることも一つの要因ではないかと思います。

今年の三が日は驚かされるようなニュースが続き、不安に感じる子がいても不思議ではないと思いながら冬休み明けの子どもたちを迎えました。けれども多くの子どもたちが元気に登校し、おかげさまでじきに学校の「日常」が戻ってきました。「日常」が「日常」として続くことが安心、心の安定となり、ちょっとした「非日常」が楽しみにもなるのだと実感しました。

しかし、今年１月１日の「令和６年能登半島地震」の被災地では、約一か月が過ぎようとしている現在でも水道をはじめとするライフラインが復旧していない地域が残っています。避難所やご自宅等で不自由な生活を送っている方が多くいらっしゃるという報道が続いており、見聞きするたびに胸が塞がれる思いがします。ふだん何気なく過ごしている「日常」が実は「当たり前」ではないこと、多くの人や物、時間のおかげで成り立っていること。そのことに改めて気付かされ、その有難さや大切さを忘れがちであることに思いが至っています。「日常」が何事もなく繰り返されることの有難さと「ふだん通りの明日が必ず来るとは限らない」という自戒を忘れない一年にしたいと考えさせられた一月でした。

学校ではこの時期、今年度の教育活動を振り返り、来年度に向けた検討を行っています。今年度は新型コロナウイルスの５類感染症移行もあり、教育活動も「（コロナ前の）日常」やコロナ禍を経た「新たな日常」を考慮しながらの取組があったと思います。前例踏襲ではなく、改めて目的や目標を確認し、あり方を見直すことも少なくありません。当たり前のように行ってきたことが制限されたことで、新たな考え方や視点をもって見直し、つくり直す機会になったともいえるのかもしれません。

「一月往ぬる二月は逃げる三月去る」の諺もありますが、うるう年で１日多い二月を大事に過ごしたいと思います。